

## 生徒会活動を中心に、 地域と生徒をつなぐ環境教育の取組

「キラツときれい」を合い言葉に、生徒会を中心に地域・学校を愛する活動を実施している。生徒会の活動を中心に、地域とかかわり、つなぎ、成果発表の機会をつくる。外部から評価されることで、生徒の行動力にもつながっている。

### 1 学校の概要と生徒のようす

本校は生徒数 979 名(平成 25 年 5 月 1 日現在)を有する大規模校であり、現在も生徒数は増加傾向にある。全体的に何事にも意欲的な生徒が多く、学習活動や部活動、特別活動に対して比較的落ち着いて取り組めるが、生徒数が多いこともあり、都市化傾向の進む中で純朴さ、優しさ、連帯意識が薄れ、論理性・合理性を尊び、個人中心的な志向が強くなってきている。学校での集団生活における規範意識は全般にあり一定遵守しているが、集団の一員として正しく判断し主体的に行動し、よりよい集団づくりに励もうとする意欲はやや乏しい。

また本学区は、従来の農村地域に加えて、瀬田駅を中心として新興住宅地が急速に広がった学区である。現在でも琵琶湖沿いの地域や草津市との境の地域、瀬田文化ゾーン附近の地域ではさらに住宅が増え、人口も増え続けている。当然、校区の瀬田北小学校、瀬田東小学校ともに児童数が多く、ここ数年で両校ともに 1000 人規模の学校となっている。従来からのしきたりや地域行事を重んじ、継承する地域である一面と大津市では一番人口流入が多く、高齢者率が低い地域という一面を持っている。教育への関心や期待は高く、教育熱心である。地域の教育力は、組織として充実し学校教育に対して協力的である。

そのような状況の中、生徒会執行部を中心に、地域の教育力をお借りして、様々な教育活動に取り組んでいる。平成 22 年度から人を思いやる心の育成を本校の重点項目にあげ全校体制で取り組むよう努力しており、「瀬田北中生のあたりまえ」の定着に全力をあげている。

また今年から生徒だけでなく、教師の重点目標

もスローガンで表現し、①人権感覚(つなぐ) ②授業研究(つくる) ③凡事徹底(つづける)とした。

### 瀬田北中のあたりまえ

- あいさつ
- 礼儀
- 身だしなみ
- 思いやり



ゆるキャラ  
「セタキタイガー」

### 2 本校の環境教育

#### (1) 目標

- ・地域の自然環境、社会的・文化的環境などに対応する感受性を養い、環境への興味・関心を高める。
- ・教科指導などを通して、環境に対する正しい判断力を養い、環境保全や環境問題に対して主体的に関わっていく意欲や行動力を育てる。

#### (2) 指導の重点

- ・生徒会活動の活性化をはかり、生徒会執行部が実施している「キラツときれい大作戦」の継続と深化をはかる。
- ・キャリア教育と関連させ、他の大人の方によるふれあいの中で、環境とは何かを考えさせたい。また「あおい琵琶湖」を積極的に活用する。

### 3 活動の事例

本校では、生徒会活動も重点活動と位置付け、生徒会執行部を中心に各種委員会で生徒が主役と

なる良い活動を積極的に支援している。数年前より「キラッときれい」を合い言葉にして、学校、地域を愛することで、学習環境の整備につながるとともに、自尊感情の育成や自己有用感を高め、地域環境を愛する気持ちにつながるような活動に取り組んでいる。愛校心の育成に関わって、一昨年度より本校の「ゆるきゃら」も誕生し、さまざまな活動で活躍している。直接、環境美化に関係する実践事例を以下に示す。

### (1) キラッときれい大作戦

毎月1回、生徒会執行部が企画し、学校内外のいろいろなところの清掃活動を行っている。生徒自身で、日頃の清掃では不十分だと感じているところや、教員にアンケートを実施して清掃場所を決め、放課後にボランティアを募って清掃活動を行っている。

年間、何度か地域と連携し、学校の横を流れる長沢川の清掃や地域での清掃活動も実施している。長沢川の清掃では、川底に降り、水に入りながら、廃棄物を回収している。中には、なぜこんなものが川に落ちているのか、と思うものもあり、それらを回収することで、環境美化だけでなく、生徒に達成感が得られ、またそのことが郷土の川を私たちが守るといふ、心の育成にもなっている。

### (2) 地域清掃

学区全域で琵琶湖一斉清掃などに参加するほかに、地域の方やPTAと連携して、学区内の清掃と学校周辺の清掃を行っている。自治会では、瀬田北中学校のPTAだけでなく、老人クラブのみなさんや社会福祉協議会のみなさん、補導委員さん、民政児童委員さんなども積極的に関わってくださり、そのことで生徒が地域に愛着を持つことにつながっている。

### (3) 発表の場の機会づくり

ごみ散乱防止策として、生徒会では花壇整備を活用している。単にごみを捨てない呼びかけのポスターをつくるのではなく、花の紹介のポスターをつくることで、花壇や植え込みにごみを捨てさせないようにしようというアイデアで、FBCにも応募し、入賞をめざしていることを全校生徒に伝えてきた。平成24年度に奨励賞、平成25年度には、優良賞をいただき、生徒たちが誇りに思える花壇となった。

また「ごみ減量化と環境美化に関する標語」に3年生生徒全員から作品を募り、応募したところ、優秀賞をいただくことができた。

さらに平成25年7月1日の「びわ湖の日」は本校には特別な日となった。琵琶湖博物館の移動博物館展示が行われ、地域の方や近隣の幼稚園児、小学生も展示物に触れることができた。子どもた

ちは、学芸員の話に一生懸命耳を傾け、琵琶湖のことを学ぶと共に、瀬田北中学校がエコ・スクールとしても、がんばっていることが、さらに広く知れることとなった。

放課後には、展示キットを活用し、嘉田知事が“1日学芸員”として登場し、琵琶湖の魅力や不思議を中学生たちに解説をしていただいた。嘉田知事と琵琶湖への想いを一緒に語り合った中学生は、「美しいびわ湖を未来に引き継ぐために、私たちがいまできること」の力強いメッセージを発表し、知事からは「飲水思源」の色紙をいただいた。



## 平成25年度

「ごみ減量化と環境美化に関する標語」優秀賞

○ゴミが減る 地域の笑顔が また増える

(3年男子)

○ペットボトル 減らす切り札 マイボトル

(3年女子)

## 4 成果と課題

今年度の受賞や知事の訪問は、県庁で代表が表彰を受けたり、新聞報道されたりすることで、地域の方々にも周知されることとなった。このことは、「瀬田北中学校は、部活動や環境の活動でがんばっている」という評価が、生徒に伝わることで、さらなる生徒のやる気を引き出す「正」のスパイラルとなっている。こうした生徒会の取組に、一般生徒は分かりやすく、応援しやすくなってきた。地域を、そして仲間の活動を大切に思うことが、今後活動していく力を身につけるができた良い機会であると考えている。

生徒たちが「わたしたちの地域」を大切に思い、「地域の環境を大切にしていきたい」という思いを持ち続け、取り組んでいる活動を今後も支援していきたい。

学校名	大津市立瀬田北中学校
住所	大津市大將軍1-13-1
電話番号	077-543-2073
E-mail	setk-j@otsu.ed.jp